

保育のヒント～「科学する心」を育てる～

不思議発見！～色水～／学校法人岩崎学園 くりの木幼稚園

子どもたちが大好きな色水遊び。花びらから色が出る不思議さ、面白さを楽しむ姿、色を作り出すために試行錯誤する姿には、「科学する心」が育まれています。園の自然環境が自分たちにより身近になってくると、作りたい色によって花を選ぶなど、子どもたちの興味は広がります。今回は、色水遊びを始めた子どもたちが、クリアな色水を求めたり、色の変化を求めたり、様々な追求を楽しむ事例をご紹介します。どこの園でも見られる色水遊び、子どもたちの取り組みや保育者の援助は、大きな保育のヒントに繋がります。



○ 「きれいなジュースが作りたい！」

✦ ジュース屋さん

色水遊びを楽しむ子どもたち。花や木の実（ソメイヨシノ、桑の実）など種類の違いや加える水の量によって色が濃い物、薄い物を作っていた。

様々な色の色水ができ、

「ジュース屋さんやろうよ」

「いいねー、いろんなジュース作ろうよ」

「お店ができたら年少の小さい子も呼ぼうよ」と希釈の度合いを子どもたち同士で相談し、同じ色だけでなく、思い通りの色が出せないか？お店を開くにはどうしたらいいか？試行錯誤し始めた。



✦ きれいなジュースが作りたい！

色水の中に崩れた花びらなどが残るのを見て「全部きれいなジュース作りたいよね」というAちゃん。

その後、子どもたちが自分の考えを出し合って工夫をするようになる。

クリアなジュースを目標に、ビニール袋の中で揉んで色水にして花びらを取り除く方法を試したが、袋の中でかきまわしてしまい、多くのゴミが取り除けなかったBちゃん。

ペットボトルに移し替える方法を考え、ビニール袋から注ぎ込む段階でゴミを入れないようにする。しかし、移し替える時にこぼれてしまうこともあり、ゴミを取り除くのと色水を注ぐのを同時に行うのは難しい様子だった。

茶こしのような網が付いたやかんを見つけたBちゃんが「これに色水入れてペットボトルに移せばゴミが入らないんじゃない？」と言うので、みんなで試してみたところ網にゴミが引っ掛かり、きれいな色水（ジュース）を作り出すことができた。



✦ 色がかわったよ！

普段の遊びの中で色水に土や砂や梅の実を入れたりする子どもたち。梅を入れると色が変わることをなんとなく知っている。

Cちゃん：「酸っぱいの入れると色が変わるんじゃない？」

Dちゃん：「色が変わりそうな探しに行こうよ」

園内を巡ってもピンとくるものが無いようで

Cちゃん：「梅ジュースは？」

Dちゃん：「あ、あれ酸っぱいね」

Eちゃん：「いいかも！！」

などと梅ジュースを色水に混ぜてみるようになった。

豊かな環境を利用して身近にあるものを混ぜたりして、どうなるか何気なく試している子どもたち。砂や土を混ぜるときれいな色ではなくなることが分かっているので、酸っぱい物イコール梅、または梅ジュースであると思い付いて試してみることにした。

花から作った色水に梅ジュースを静かに注ぎ込むと、注ぎ込んだ所からフワッと色が変わっていく様子に歓声を上げる。

「やっぱり酸っぱい物で色が変わるんだ」

「マジックみたい」

と自分たちが考えた、色が変わるであろう仮説が正しかったことを確認していた。



✦ 今後に向けて

子どもたちからの「花についてもっと知りたい！」という気持ちから始まり、梅ジュースと梅干しの違い、色の変化に注目し、いろいろな事を発見することができた。

色水遊びから子どもたちの考えでジュース屋さんへ遊びが発展する際に、透明できれいなジュースを作るにはどうするか協力して試行錯誤する姿が見られた。

色水遊びに使う自然素材をもっと広範囲に提供できたらもっと遊びが豊かになったのではないか、梅干しや紫蘇についても掘り下げたらもっと子どもたちからの楽しい思い付きやアイデアが出てきたのではないかと考える。保育者の配慮や提案方法も磨いていきたい。



無断転載を禁ず。引用する場合は下記を必ず明記願います。

「(C)公益財団法人 ソニー教育財団

ソニー幼児教育支援プログラム 幼児教育保育実践サイト <http://www.sony-ef.or.jp/sef/preschool/>」